

1. 1. 7 スケトウダラ

担当者 調査研究部 田中 伸幸

(1) 目的

スケトウダラは、網走支庁管内において主に沖合底曳き網（以下、沖底と称す）漁業の重要な漁獲対象資源であり、また、「海洋生物資源の保護及び管理に関する法律」によって特定海洋生物資源に指定され、TACが設定されている。そのため、スケトウダラ資源の動向を把握し、管内の漁業経営の安定化を図る。

(2) 経過の概要

沖底漁獲量は、「北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計」の中海区「オコック沿岸」と「N46'以北オコック海」を集計した。沿岸漁獲量は、「漁業生産高統計」の宗谷支庁枝幸漁協から網走支庁ウトロ漁協までを集計した（詳細は表1参照）。ただし、2008、2009年度は暫定値である。

2009年6月と12月に網走港に水揚げされたスケトウダラの生物測定を行った。なお、本調査は国費予算である「資源評価調査」と共同で行っている。

(3) 得られた結果

本海域の近年のスケトウダラ漁業は、その漁獲の95%以上を大臣許可の沖底漁業が占め、残りはスケトウダラ刺し網漁業などの沿岸漁業である。本海域のスケトウダラを対象とした沖底漁業は、北見大和堆周辺および網走湾の水深200 m付近を中心漁場としている。操業は結氷期（例年2月から3月頃）を除き周年行われ、その盛漁期は春の5月～7月と冬の12月～1月の2回であるが、通常6月頃が漁獲のピークとなっている。

ア 漁獲量の推移

日本水域内における1951年以前の漁獲量は5万トン以下、1952～1958年は7～9万トン、1959～1964年は10～15万トン、1965～1973年は5～8万トン程度であったとされる。

本海域の主漁業である沖底漁業では、1972年にトロール船が導入される以前はかけまわし船のみであった。沖底漁業の漁獲量（日本水域）は、1964年度に約10万トンであったが、その後減少し、1973年度までは5～10万トンで推移した（表1、図1）。1974、75年度に漁獲量は急増し、

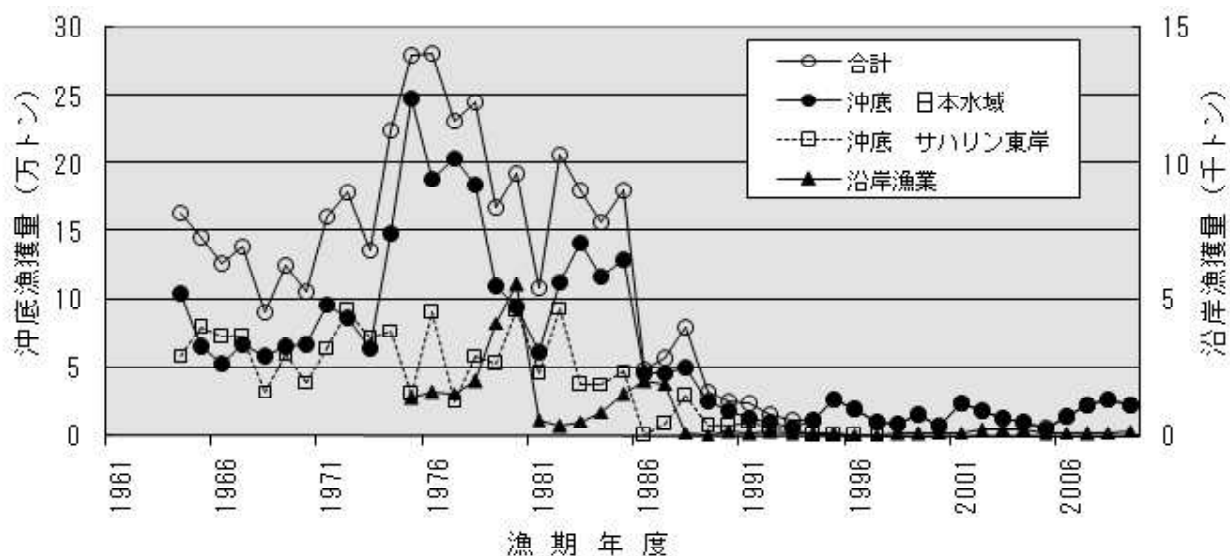


図1 オホーツク海におけるスケトウダラ漁獲量の経年変化

表1 オホーツク海南西部におけるスケトウダラ漁獲量およびTAC量の経年変化
(単位: トン)

年度	合計	沖底						沿岸		
		日本水域			サハリン東岸					
		小計	トロール	かけまわし	小計	トロール	かけまわし			
1961										
1962										
1963										
1964	163,386	104,117		104,117	59,268		59,268			
1965	145,536	66,279		66,279	79,258		79,258			
1966	126,373	53,868		53,868	72,504		72,504			
1967	139,432	67,003		67,003	72,430		72,430			
1968	91,233	58,209		58,209	33,024		33,024			
1969	125,639	65,458		65,458	60,180		60,180			
1970	106,417	66,740		66,740	39,677		39,677			
1971	160,793	96,019		96,019	64,775		64,775			
1972	178,598	86,547	6,225	80,321	92,051	7,032	85,020			
1973	135,673	64,360	14,862	49,498	71,313	23,192	48,121			
1974	225,090	147,996	52,582	95,414	77,095	35,775	41,320			
1975	280,569	247,984	98,090	149,894	31,175	15,095	16,080	1,410		
1976	281,480	189,220	58,075	131,146	90,645	48,039	42,606	1,615		
1977	231,604	204,015	86,398	117,617	26,000	24,145	1,855	1,589		
1978	245,441	184,429	71,250	113,179	58,995	51,623	7,372	2,017		
1979	167,392	110,206	40,106	70,100	53,044	44,867	8,177	4,142		
1980	192,971	94,968	34,600	60,368	92,432	40,599	51,833	5,572		
1981	108,276	61,868	24,508	37,359	45,811	35,690	10,121	596		
1982	206,700	112,754	70,863	41,891	93,800	45,758	47,842	346		
1983	180,460	142,326	102,219	40,106	37,603	37,441	162	532		
1984	156,472	116,978	87,837	29,142	38,603	37,047	1,555	891		
1985	179,740	129,857	91,807	38,050	48,351	46,706	1,645	1,532		
1986	49,150	46,968	25,086	21,882	152	52	100	2,030		
1987	57,787	46,691	17,884	28,807	9,178	7,771	1,407	1,919		
1988	79,221	50,022	14,340	35,682	29,076	28,673	403	123		
1989	32,763	25,723	1,902	23,821	6,981	6,981	0	59		
1990	25,984	18,519	1,137	17,382	7,325	7,325	0	140		
1991	24,085	13,508	412	13,096	10,462	10,419	43	115		
1992	16,177	10,185	227	9,958	5,852	5,852	1	140		
1993	11,387	5,908	287	5,621	5,388	5,388	0	90		
1994	11,557	11,365	1,280	10,086	82	73	9	110		
1995	26,668	26,548	2,809	23,739	23	23		97		
1996	20,361	20,194	2,258	17,936	108	108		60		
1997	10,682	10,579	438	10,141	36	36		68		
1998	8,675	8,587	69	8,518				68		
1999	15,339	15,233	616	14,417				106		
2000	8,255	8,139	450	7,689				119		
2001	23,722	23,608	3,111	20,495				116		
2002	19,141	18,906	1,547	17,359				235	25,000	若干
2003	13,153	12,936	593	12,343				217	25,000	若干
2004	10,266	10,028	476	9,552				238	25,000	若干
2005	5,572	5,480	133	5,347				92	24,000	若干
2006	14,785	14,657	2,437	12,220				129	24,000	若干
2007	22,605	22,501	5,007	17,495				104	26,000	若干
2008	27,394	27,265	5,300	21,965				129	36,000	若干
2009	23,148	22,943	3,379	19,564				205	27,000	若干

資料: 沖底漁獲量は「北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計」

・日本・・・中海区「オホーツク沿岸(日本水域)」

・サハリン東岸・・・中海区「オホーツク沿岸(ロシア水域)」+「N46°以北オホーツク海」

沿岸漁獲量は、

・1985年度以降は漁業生産高統計の枝幸漁協～ウトロ漁協

・1985年度以前は日現勢電子データの枝幸町～斜里町

*2010年1～3月分は未集計

TAC量は水産庁HPから引用した。

TAC量 期中
沖底 沿岸 改定

◎
◎

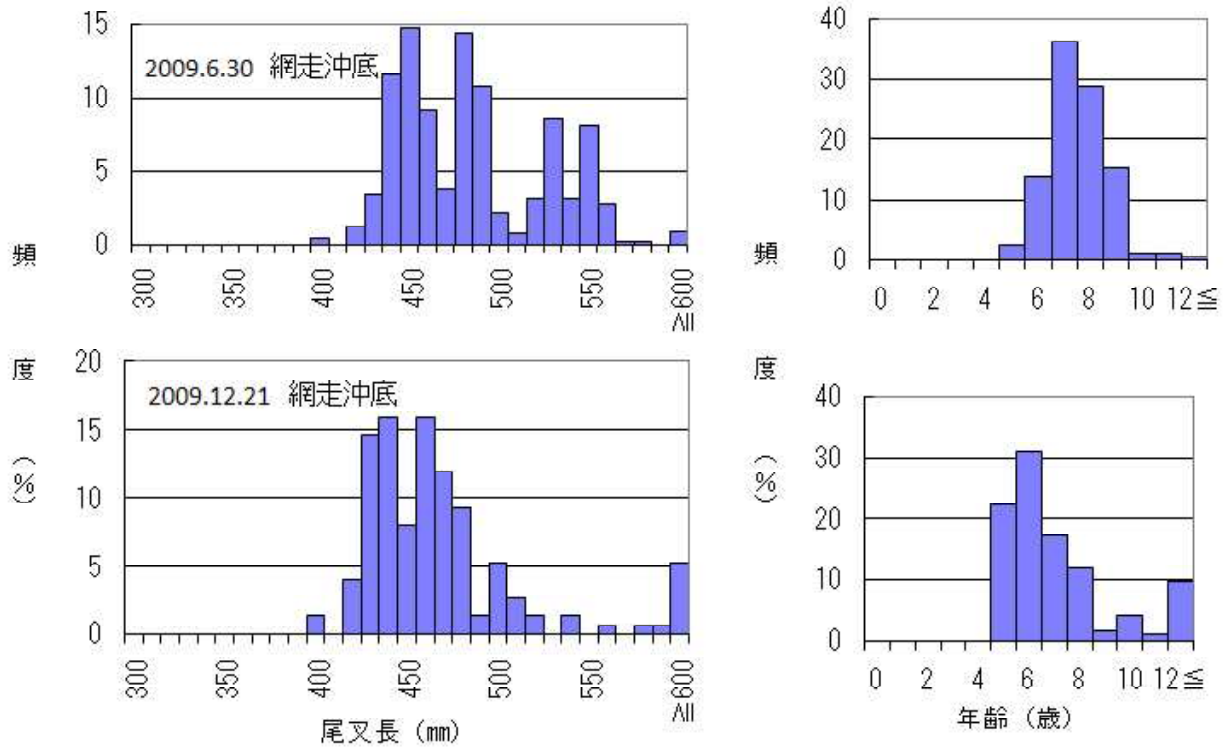


図2 2009年度に漁獲されたスケトウダラの尾叉長および年齢組成

1975年度には約25万トンの漁獲があった。1976～1985年度の漁獲量は、毎年ほぼ10万トン以上であったが、この間、漁獲量は増減を繰り返しつつも減少傾向を示していた。1986年度には漁獲量が5万トン前後に減少し、1989年度以降、現在まで漁獲量は3万トン以下の低水準で推移している。1980年代末から1990年代初めにかけて、操業の狙いがスケトウダラからズワイガニに変わり、スケトウダラを漁獲する漁法の中心がトロールからかけまわしに変化した。しかし、1996年度以降はズワイガニの漁獲量も減少し、かけまわしがズワイガニに漁獲努力を集中させる傾向は弱まっている。2005年度の漁獲量は5,480 トンで、漁獲統計が収集可能となった1964年以降最低となったが、2006年度以降漁獲量は増加傾向に転じ、2009年度は22,943 トン（暫定値）であった（表1）。

1975年度以降の沿岸漁業による漁獲量（日本水域のみ）は、沖底を含めた本水域内漁獲量全体の5%以下で推移してきた（表1、図1）。漁獲量は1975～1980年度まで増加傾向を示し、1980年度には5,572 トンまで増加したが、1981年度には596 トンまで急減した。その後、再び漁獲量は増加傾向

に転じ、1986年度に2,030 トン、1987年度に1,919 トンとなった。しかし、1988年度になると再度急減し、2009年度まで250 トン以下の漁獲水準が続いている。2009年度の漁獲量は205 トン（暫定値）であった。

サハリン東部海域における日本の沖底船の漁獲量は、1964～1976年度まで増減を繰り返しつつも3万トン以上で推移した（表1、図1）。1978年にはソ連200 カイリ漁業専管水域が設定されたが、1985年度まで漁獲量は2万トン以上で推移した。しかし、1986年にこの海域での着底トロールは禁止となり、また、漁獲割当量も減少した。そのため1986年度以降漁獲量は減少し、1998年度以降の漁獲はなくなっている。

イ 漁獲物の体長・年齢組成

2009年度に生物測定を行ったスケトウダラ漁獲物の体長・年齢組成を図2に示した。2009年6月に漁獲されたスケトウダラ標本について、尾叉長のモードは44 cm台と48 cm台、年齢のモードは7歳であった。また、2009年12月について、尾叉長のモードは44, 46 cm台、年齢のモードは6歳であった。